能代東中で

進路選択の視野広げ

国交省能代と業界団体 建設の〝現場〟を体験

能代市能代東中（佐藤俊之校長）で26日、生徒らに建設業界の仕事を知ってもらおうと体験型現場学習会と題し、測量体験や重機見学などが行われた。中学生対象としては県内初の試みで、参加した生徒らは普段経験できない〝ミリ単位の世界〟を体験、進路や将来の夢を考える際の参考にしようと目を輝かせていた。

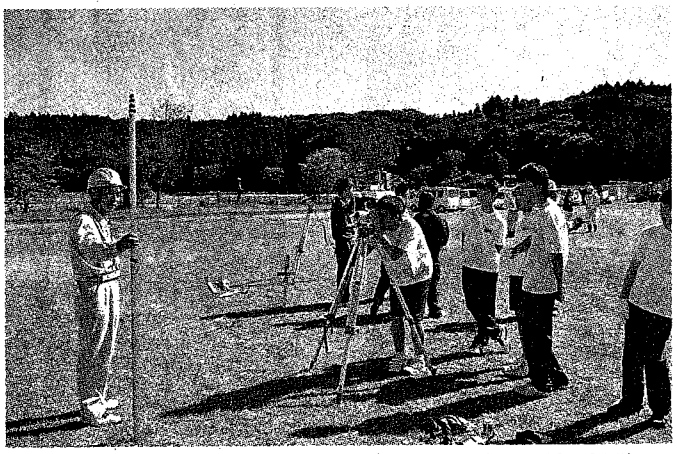
国交省能代河川国道事務所と能代山本建設業協会の主催。建設業に就職する若者の減少などを背景に、若い世代に建設業に興味を持ってもらおうと県内で初めて中学生を対象に実施した。同協会の若手で組織する建北会の協力を得て12業者25人が講師を務め、同校の3年生58人が参加した。

同校グラウンドに集まり安全祈願を行った後、生徒らは測量に挑戦した。はじめに計測地点から目印になるミラー付きポールまでの距離を目測で予想してから、光波により距離などを測定する光波測距儀を使って正確な距離や角度を測った。生徒らは、目測と正確な距離が大きく離れていることに驚きの表情を見せながらも測量に理解を深めた。

このほか、生徒らは目標の高さや水平性を測るレベルも使ってポールの高さなどの調整、重機の乗車体験やアスファルトをはいで細かくしたものを敷き詰める簡易舗装なども行った。

鎌田将吾君は将来土木業に就職したいといい、「8月下旬の能代工高の体験入学でも測量したけれど、そのときより本格的な装置が揃っていた。進路や将来を考える上でとても参考になった」と話した。

同校によると通常の職場体験では建設業界を訪れることがないため、こうした機会は生徒の進路選択の視野を広げるためには貴重という。また、同協会の担当者は管内の建設業従事者の半数以上が50歳以上で、少子化や若者の建設業離れが進む現状では人員確保、技術継承が困難とし、「少しでも建設に興味を持ってもらえたら」と話した。



県内で初めて開かれた中学生対象の体験型現場学習会（能代東中で）